

## 発表番号 2

「赤谷プロジェクトにおける市民参加のモニタリング調査  
(ホンドテンを指標種とした森林環境調査)」  
赤谷森林ふれあい推進センター  
自然再生指導官 石坂 忠  
赤谷プロジェクト  
サポーター 鈴木 誠樹

### 1 課題を取り上げた背景

平成16年度から始まった「三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画(通称:赤谷プロジェクト)」(以下、赤谷P)は、今年度で10年目になります。赤谷Pでは生物多様性の復元に向け、自然環境モニタリング会議を設置し、様々なモニタリングを行っています。その中から地域住民と赤谷Pサポーターが中心となって行っているホンドテンを指標とした森林環境調査を紹介します。

森林環境をモニタリングし評価することは、現実的にはかなり難しいことですが、森林に生息する特定の動物を指標として、その動物の生態を通じて評価することは可能ではないかと考えられます。そのため、赤谷Pほ乳類WGの足立委員(応用生態技術研究所所長)から指導をいただき、ホンドテンを指標とした調査を行っています。ホンドテンの「糞」を解析し森林環境を評価するのですが、サンプリング方法等が簡易であることから一般市民の参加も可能であり、また、サンプリングは林道や歩道で行うので比較的安全に行えます。



ホンドテン

### 2 具体的な取組

- (1) サンプリングするコースを決めて、毎月1回を目処に各コースでサンプリングを行います。
- (2) サンプリングは足立委員が作成した「テンの糞を対象としたモニタリング調査マニュアルガイドライン」に基づき行います。
- (3) 採取されたサンプルはフリーザーに入れて保管します。
- (4) 1年分のサンプルは、年末にクール便で分析を行う足立委員へ送付します。
- (5) サンプルは内容物、DNAを分析し、その結果を赤谷Pに報告します。



サンプリング風景

### 3 取組の結果

- (1) 赤谷地域に生息するホンドテンの生息個体数
  - ① 赤谷地域全体の変動はあるもののおおよそ安定しています。
  - ② 赤谷の各調査コースの個体数変動は同調的で、あるコースのみの特異性は認められません。
- (2) 赤谷地域に生息するホンドテンの採餌傾向
  - ① 特定の植物種の豊凶に大きく左右されますが、年間を通じて動物食が中心です。
  - ② 動物類では、ネズミ類と昆虫類が優先します。
  - ③ 植物類では、ヤマグワ、ウワミズザクラ、サルナシ、ツルウメモドキなどが目立ちます。
  - ④ 季節変動
    - 【春季】動物類ではネズミ類、ノウサギ、モグラ類、鳥類などが他の季節より多いです。植物類ではツルウメモドキが少し目立つ程度です。
    - 【夏季】動物類では昆虫類が最も多いです。植物類ではヤマザクラやカスミザクラなどのサクラ類、ヤマグワ、イチゴ類などが出現し、初夏～夏季に実を結ぶ植物類が採餌されます。
    - 【秋季】動物類では夏季と同じような状況が継続しています。植物類では「サルナシ」の季節で、集中的に採餌しています。
    - 【冬期】比較的にネズミ類や鳥類が目立ちますが、数量は多くありません。植物種はほとんど出現しなくなります。

### 4 まとめ

ホンドテンの採餌傾向から、ホンドテンから見た赤谷地域の自然環境の状況はおおよそ把握できましたが、自然環境の変動をモニタリングするまでには、なお時間が必要です。しかし、ホンドテンはバラエティに富んだ多くの種類の動植物を餌資源として利用しています。ホンドテンが安定して生息する環境は、餌となる動植物が安定して生息・育成している証左であり、モニタリングデータに大きな変動があった場合には、生息する自然環境に何らかの変化が発生している可能性が予想されます。こうしたことから、ホンドテン及びホンドテンの生息環境が保全されることは、森やそこに生息、生育する多くの動植物が保全されることを意味しており、このことが生物多様性の評価につながるのではないかと考えます。

併せて、こうした安全かつ簡易なモニタリング調査は、地域の方々や一般の方々を定期的に行うことによって、その時々季節の変化を楽しみながら森林環境の遷移を肌で感じる事が出来るでしょう。